

古文ドリル：和歌の修辞法 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：和歌の主要修辞法

修辞	効果	例
枕詞	特定語を導く5音の修飾語（訳さない）	あしひきの→山
序詞	7音以上の修辞、特定語を導く	風吹けば沖つしらなみ→たつ
掛詞	1語に2つ意味を重ねる	まつ=松/待つ
縁語	関連語を散りばめる	「松」と「枝」「葉」など
本歌取り	古歌を踏まえる	古歌の語句を借用
体言止め	文末を体言で締める	～山。～風。
倒置法	語順を入れ替える	普通文の逆順
対句	同形の句を並べる	～+～の対比

主要な枕詞（暗記必須）

枕詞	導く語
あしひきの	山・峰
ひさかたの	光・空・雲・天・月
たらちねの	母・親
くさまくら	旅
ちはやぶる	神
しろたへの	衣・袖・雪
からごろも	着る・裁つ
あらたまの	年・月・春
あをによし	奈良
わかくさの	妻・新
ぬばたまの	夜・黒・髪
あかねさす	日・昼・紫
たまきはる	命・世
あづさゆみ	引く・張る・射る
もののふの	八十・矢

頻出の掛詞

掛詞	二重の意味
まつ	松・待つ
ふる	経る・降る・古る
ながめ	眺め・長雨
あき	秋・飽き
かれ	枯れ・離れ
いる	入る・射る
ふみ	文・踏み
よ	世・夜・節
すむ	住む・澄む
うき	浮き・憂き

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

修辞法は丸暗記が王道。

こちらは **試験本番で3秒で見抜く** ための実戦テクニックです。

コツ① 歌の冒頭5音が「あしひきの／ひさかたの／たらちねの…」なら即「枕詞」

歌の最初の5音に違和感のある言葉が来ていたら、まず枕詞を疑う。 - 「あしひきの」が来たら次は山 → **枕詞** - 「ひさかたの」が来たら次は光・空・月 → **枕詞** - 「ぬばたまの」が来たら次は夜・黒 → **枕詞**

主要15個を覚えるだけで枕詞問題は8割取れる。

コツ② 「同じ音で意味が2つに取れそう」と感じたら掛詞

歌の中で「**これ、2通りに読めるな?**」という言葉が出てきたら掛詞。 - 「まつ」（松+待つ）「ふる」（経る+降る+古る）「あき」（秋+飽き）が頻出ベスト3 - 季節（春・秋）と恋（待つ・飽き）が同居していたら掛詞ほぼ確定

「植物名 + 心情語」のセットを見たら反射で掛詞をチェック。

コツ③ 序詞は「7音以上で～のようにが略されてる」のサイン

枕詞との違いは **長さ**。 - 5音固定 → 枕詞 - 7音以上で、内容が後半とつながる → 序詞

「風吹けば沖つしらなみ」(7音以上) → 「たつ」を導く序詞。「あしひきの」(5音) → 「山」を導く枕詞。

コツ④ 縁語は「テーマ単語の家族探し」

歌の中心テーマ(松・衣・舟・水)に関連する単語が散りばめられていたら縁語。 - 「松」 → 「枝」「葉」「色」「常磐」 - 「衣」 → 「袖」「裾」「縫ふ」「裁つ」 - 「水」 → 「流れ」「淀む」「波」「澄む」

「主役の単語の家族」がいたら縁語と判定する。

試験本番でのチェック順序

1. **冒頭5音** をチェック (枕詞リストにあるか)
2. **同音異義に取れる単語** をチェック (掛詞)
3. **7音以上で後半につながる句** をチェック (序詞)
4. **テーマ単語の関連語が散りばめられて** いないか (縁語)

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 枕詞と序詞を **長さ** で区別せず誤答 (5音か7音以上かで決まる)
- 「あしひきの山」を「あしひき+の」と切って枕詞だと気づかない
- 掛詞を **どちらか一方の意味** でしか取らない (必ず2つ書く)

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

主要な枕詞・代表的な掛詞・体言止め等の基礎修辞。

Q1. 修辞法を答えよ。

あしひきの山鳥の尾の…

Q2. 修辞法を答えよ。

ひさかたの光のどけき春の日に…

Q3. 修辞法を答えよ。

たらちねの母…

Q4. 修辞法を答えよ。

くさまくら旅にしあれば…

Q5. 修辞法を答えよ。

ちはやぶる神代もきかず竜田川…

Q6. 修辞法を答えよ。

しろたへの衣干したり…

Q7. 修辞法を答えよ。

風吹けば沖つしらなみ**たつた**山夜半にや君がひとり越ゆらむ

Q8. 修辞法を答えよ。

夢と知りせば覚めざらましを

Q9. 修辞法を答えよ。

花の色はうつりにけりないたづらに我が身世にふるながめせし間に

Q10. 修辞法を答えよ。

あらざらむ此の世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな

Q11. 修辞法を答えよ。

あらたまの年の暮れになりけり…

Q12. 修辞法を答えよ。

あをによし奈良の都は…

Q13. 修辞法を答えよ。

わかくさの妻…

Q14. 修辞法を答えよ。

ぬばたまの黒髪…

Q15. 修辞法を答えよ。

春過ぎて夏来たるらししろたへの衣干すてふ天の香具山

Q16. 修辞法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしや

Q17. 修辞法を答えよ。

たまきはる命を…

Q18. 修辞法を答えよ。

散りぬともかねてぞ惜しき紅葉葉

Q19. 修辞法を答えよ。

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして

Q20. 修辞法を答えよ。

桜散る木のしたかぜは寒からでそらに知られぬ雪ぞふりける

基礎編 / 20

【第2部】 標準編 (Q21~Q50)

枕詞・序詞の応用、掛詞・縁語の標準問題。

Q21. 修辞法を答えよ。

あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

Q22. 修辞法を答えよ。

からごろも着つつなれにし妻しあれば…

Q23. 修辞法を答えよ。

あづさゆみ春の山辺を越え来れば…

Q24. 修辞法を答えよ。

み吉野の山の白雪つもるらしふるさとさむくなりまさるなり

Q25. 修辞法を答えよ。

立ちわかれいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む

Q26. 修辞法を答えよ。

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

Q27. 修辞法を答えよ。

心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

Q28. 修辞法を答えよ。

風そよぐならの小川の夕暮れは**みそぎ**ぞ夏のしるしなりける

Q29. 修辞法を答えよ。

君がため春の野に出でて若菜つむ我が衣手に**雪は降りつつ**

Q30. 修辞法を答えよ。

しの**ぶ**れど色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで

Q31. 修辞法を答えよ。

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに**焼く**やもしほの身もこがれつつ

Q32. 修辞法を答えよ。

田子の浦にうち出でて見れば**しろたへ**の富士の高嶺に雪は降りつつ

Q33. 修辞法を答えよ。

あけぼの**ぞ**春のあはれと知らるらむ

Q34. 修辞法を答えよ。

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知り**せば**覚めざらましを

Q35. 修辞法を答えよ。

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶる事の弱りもぞする

Q36. 修辞法を答えよ。

春の夜の夢の浮橋とだえして峰にわかるる横雲の空

Q37. 修辞法を答えよ。

心なき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢の秋の夕暮

Q38. 修辞法を答えよ。

見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮

Q39. 修辞法を答えよ。

さびしさはその色としもなかりけり楨立つ山の秋の夕暮

Q40. 修辞法を答えよ。

久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

Q41. 修辞法を答えよ。

夕されば門田の稲葉おとづれて葦のまろ屋に秋風ぞ吹く

Q42. 修辞法を答えよ。

風をいたみ岩うつ波の**おのれのみ**砕けてものを思ふ頃かな

Q43. 修辞法を答えよ。

嘆けとて月やはものを思はする**かこち顔**なるわが涙かな

Q44. 修辞法を答えよ。

山里は冬ぞさびしさまさりける**人目**も草も**かれぬ**と思へば

Q45. 修辞法を答えよ。

滝の音はたえて久しくなりぬれど**名**こそ流れてなほ聞こえけれ

Q46. 修辞法を答えよ。

千早ぶる神代もきかず**竜田川**からくれなゐに水くくるとは

Q47. 修辞法を答えよ。

吹くからに秋の草木のしをるれば**むべ山風**を嵐といふらむ

Q48. 修辞法を答えよ。

あひ見ての後の心にくらぶれば昔は物を**思はざりけり**

Q49. 修辞法を答えよ。

由良のとを渡る舟人かぢをたえゆくへも知らぬ恋の道かな

Q50. 修辞法を答えよ。

八重むぐら茂れる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

掛詞・縁語・本歌取り中心の応用問題。

Q51. 修辞法を答えよ。

月見れば千々にもものこそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど

Q52. 修辞法を答えよ。

このたびは幣もとりあへず手向山紅葉の錦神のまにまに

Q53. 修辞法を答えよ。

名にし負はばあふさか山のさねかづら人に知られでくるよしもがな

Q54. 修辞法を答えよ。

小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待たなむ

Q55. 修辞法を答えよ。

君がため惜しからざりし命さへ**ながく**もがなと思ひけるかな

Q56. 修辞法を答えよ。

山桜霞のまよりほのかにも見てし人こそ**恋しけれ**

Q57. 修辞法を答えよ。

風吹けば沖つしらなみたつた山夜半にや君が**ひとり越ゆらむ**

Q58. 修辞法を答えよ。

思ひかね妹がりゆけば冬の夜の**川風寒み**千鳥なくなり

Q59. 修辞法を答えよ。

春の夜のやみはあやなし梅の花色こそ**見えね**香やはかくるる

Q60. 修辞法を答えよ。

山深み春とも知らぬ松の戸に絶え絶え**かかる**雪の玉水

Q61. 修辞法を答えよ。

駒とめて袖うちはらふ**かげ**もなし佐野のわたりの雪の夕暮

Q62. 修辞法を答えよ。

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする

Q63. 修辞法を答えよ。

ほととぎす鳴きつる方を眺むればただ有明の月ぞ残れる

Q64. 修辞法を答えよ。

いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重にほひぬるかな

Q65. 修辞法を答えよ。

朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたる瀬々の網代木

Q66. 修辞法を答えよ。

もろともにあはれと思へ山桜花よりほかに知る人もなし

Q67. 修辞法を答えよ。

高砂の尾の上の桜咲きにけり外山の霞たたずもあらなむ

Q68. 修辞法を答えよ。

憂かりける人をはつせの山おろしよはげしかれとは祈らぬものを

Q69. 修辞法を答えよ。

契りおきしさせもが露をいのちにてあはれ今年の秋もいぬめり

Q70. 修辞法を答えよ。

嵐吹くみむろの山のもみぢ葉は龍田の川の錦なりけり

Q71. 修辞法を答えよ。

寂しさにやどを立ち出でて眺むればいづくも同じ秋の夕暮

Q72. 修辞法を答えよ。

夕されば門田の稲葉おとづれて葦のまる屋に秋風ぞ吹く

Q73. 修辞法を答えよ。

音にきく高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ

Q74. 修辞法を答えよ。

高砂の松も昔の友ならなくに

Q75. 修辞法を答えよ。

あはれともいふべき人は思ほえて身のいたづらになりぬべきかな

Q76. 修辞法を答えよ。

由良のとを渡る舟人かぢをたえゆくへも知らぬ恋の道かな

Q77. 修辞法を答えよ。

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲がくれにし夜半の月かな

Q78. 修辞法を答えよ。

有馬山みなの笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする

Q79. 修辞法を答えよ。

夜をこめて鳥のそらねははかるともよに逢坂の関はゆるさじ

Q80. 修辞法を答えよ。

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出の複合修辞・本歌取り・象徴的歌の総合判定。

Q81. 修辞法を答えよ。

春の夜の夢の浮橋とだえして峰にわかるる横雲の空

Q82. 修辞法を答えよ。

駒とめて袖うちはらふ**かげ**もなし佐野のわたりの雪の夕暮

Q83. 修辞法を答えよ。

み吉野の山の秋風小夜ふけて**ふるさと**寒く衣うつなり

Q84. 修辞法を答えよ。

苦しくも降りくる雨か**三輪の崎**佐野のわたりに家もあらなくに

Q85. 修辞法を答えよ。

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶる事の**弱りもぞする**

Q86. 修辞法を答えよ。

見せばやな雄島のあまの袖だにもぬれにぞぬれし色はかはらず

Q87. 修辞法を答えよ。

きりぎりす鳴くや霜夜のさむしろに衣かたしき**ひとりかも寝む**

Q88. 修辞法を答えよ。

我が袖は潮干に見えぬ**沖の石**の人こそしらね乾く間もなし

Q89. 修辞法を答えよ。

世の中は常にもがもな渚漕ぐあまの小舟の綱手かなしも

Q90. 修辞法を答えよ。

み吉野の山の白雪つもるらしふるさとさむくなりまさるなり

Q91. 修辞法を答えよ。

心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな

Q92. 修辞法を答えよ。

朝ぼらけ有明の月と見るまでに吉野の里にふれる白雪

Q93. 修辞法を答えよ。

浅茅生の小野の篠原しのぶれど余りてなどか人の恋しき

Q94. 修辞法を答えよ。

嘆きつつひとり寝る夜のある間はいかに久しきものとかは知る

Q95. 修辞法を答えよ。

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲がくれにし夜半の月かな

Q96. 修辞法を答えよ。

やすらはで寝なましものをさ夜ふけてかたぶくまでの月を見しかな

Q97. 修辞法を答えよ。

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

Q98. 修辞法を答えよ。

今来むといひしばかりに長月の有明の月を待ち出でつるかな

Q99. 修辞法を答えよ。

あらしふくみむろの山のもみぢ葉は龍田の川の錦なりけり

採点振り返り

セクション	配点	得点
基礎 (Q1~Q20)	20	
標準 (Q21~Q50)	30	
応用 (Q51~Q80)	30	
入試 (Q81~Q100)	20	
合計	100	

- 80点以上：完璧。新古今集の本歌取りも分かる
- 60~79点：標準合格レベル
- 40~59点：基礎は固まっている。掛詞・縁語を反復
- 39点以下：枕詞と掛詞の暗記から再スタート

あとかぎ

和歌の修辞法の核心： - **枕詞**：5音、特定語を導く、訳さない - **序詞**：7音以上、特定語を導く、訳す場合あり - **掛詞**：1語に2意味 - **縁語**：関連語を散りばめる - **本歌取り**：古歌を踏まえる - **体言止め**：文末を体言で - **倒置法**：語順入替

百人一首・古今集・新古今集の必須技法。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosensei.com>